

CBL200 シリーズ 変換コネクタ

参照: 一般的なデバイスと接続するための [外部デバイスインターフェースガイド](#)



CBL200

CBL200 は、1.5mm 雌型タッチプルーフソケットと 2mm 雌型ソケットの線長 10cm のケーブルです。

100C シリーズ生体電位またはトランスデューサアンプ、もしくは STMISO シリーズ刺激モジュール接続用の 1.5mm タッチプルーフソケットに、旧型の 2mm ピンの電極リード線またはトランスデューサを変換する際に必要となります。各旧型 2mm ピンに CBL200 が 1 本必要です。

CBL201

CBL201 は、1.5mm 雄型タッチプルーフピンと 2mm 雄型ピンで、線長 10cm です。

以下の場合に CBL201 を使用します：

- ・ DA100C アンプに 1.5mm 雌型タッチプルーフ電極リード線を接続。
- ・ UIM100C モジュールの接地に電極リード線（例：LEAD110A）を接続—TSD150 アクティブ電極を使用する際に必要。
- ・ 100B シリーズのアンプモジュールに接続するために旧型 2mm ピンへ 1.5mm タッチプルーフ雌型ソケット電極またはトランスデューサリード線を変換します。

各 1.5mm タッチプルーフソケットに CBL201 が 1 本必要です。MP36/35/45 システムでは、CBL201 は旧型の SS1L シールド付きリード線アダプタをアップデートするために使用します。

CBL202

CBL202 は、2 本の 2mm 雄型ピンと雌型モノラル 6.3mm (1/4") フォンソケットの線長 10cm のケーブルです。この汎用アダプタは以下の場合で使用します：

- ・ UIM100C 上のデジタル I/O ラインに 6.3mm 雄型モノフォンケーブルを接続。
- ・ DA100C にマイクまたは 6.3mm 雄型モノフォンプラグの信号ソースを接続。
- ・ 神経チャンバ（要 CBL105）と STM100C を接続。

CBL203

CBL203 は、2 本の 1.5mm 雌型タッチプルーフソケットと雌型モノ 6.3mm (1/4") フォンソケットの線長 10cm のケーブルです。

CBL203 は、主に YSI400 シリーズ生体温度プローブを SKT100C 温度アンプに接続する際に使用します。雄型モノ 6.3mm (1/4") フォンプラグのケーブルまたはトランスデューサを 100C シリーズのアンプモジュールへ接続する際にも使用できます。

CBL204

CBL204 は、2本の1.5mm雄型タッチプルーフピンと1本の1.5mm雌型タッチプルーフソケットの線長25cmのケーブルです。

CBL204は、100Cシリーズバイオアンプと接続する場合には、2つの入力を1つにまとめて入力します。STMISOシリーズ刺激モジュールと接続する場合は、1つの出力を2つに分けて出力することができる“Y型”電極リード線アダプタです。

このY型リード線コネクタは、電極が1つのアンプ入力または刺激モジュール出力に接続する際に使用します。CBL204は、同じ入力もしくは出力への3つ以上の電極リード線を参照する際に一緒に接続できます。

CBL204- MRI

この“Y型”ケーブルは機能的にCBL204と同じですが、MRI環境で使用する事ができます。

主にMRIでのNICO（非侵襲的心拍出量）測定で使用されます。1つの1.5mm雄型タッチプルーフ入力に接続する2つの1.5mm雄型タッチプルーフ入力で、ケーブル長は5cmです。

MRIでの利用：9TまでのMR条件付き

素材：カーボン合成物、錫メッキおよび金メッキの真ちゅうコネクタ

- 1つの電極からの入力を2つ以上のアンプへ入力する際は、[JUMP100C-MRI](#)を使用してください。（1つの1.5mm雄型タッチプルーフと2つの1.5mm雌型タッチプルーフ）[JUMP100C](#)のMRI版。

CBL205

CBL205は、1.5mm雌型AC結合電極リード線アダプタと1.5mm雄型タッチプルーフで、10cmの長さです。アダプタの片方はバイオアンプのグラウンドに接続し、もう一方は電極リード線(LEAD108, LEAD110等)と接続します。



CBL205を必要とする場面は、EDA（皮膚電気

活動）と同時に、その他のバイオアンプ用にもう一つのグラウンドが必要な場合です。この場合は、バイオアンプ（ECG, EEG, EOG, EGG, EMG, ERS）のグラウンドにCBL205を使用する事を推奨しています。

また、NICO（非侵襲的心拍出量）とその他のバイオアンプ（ECG, EEG, EOG, EGG, EMG, ERS）を同時に記録する場合の様に、2つ以上のグラウンドが必要な際もCBL205を使用してください。

CBL205- MRI

CBL205-MRIは機能的にCBL205と同じですが、MRI環境で使用する事ができます。

- カーボン合成物
- 長さ16.5cm、直径7.6mm

被験者はEDAアンプのVinを通してグラウンドとつながりますが、場合によっては2つ以上のグラウンドが必要になる場合があります。このような場合に、グラウンドループを防ぐためにAC結合リード線アダプタ（CBL205/CBL205-MRI）を使用してください。

例えば、（バイオアンプおよびEDAを記録している間の）実験中にEDA電極が外れた場合、バイオアンプのためにグラウンドを維持する必要があります。常にグラウンドを維持し、グラウンドループが起こらない状態にするには、グラウンドとしてEDAのVin-リード線を接続し、AC結合されたグラウンドをバイオアンプのGNDに接続します。

安全上の注意—同じ MP システムで EDA100C、EBI100C、または NICO100C モジュールのいずれか 2 つを同時に使用する場合、グラドループはモジュールの励起電流間の非絶縁性によって問題となります。解決策は、1 台のモジュールを IPS100C と HLT100C に接続し、もう 1 台のモジュールを MP システムに接続して記録することです。MP システム側の UIM100C (HLT100C を介して) に IPS100C (HLT100C 経由) 側のモジュールからの出力を記録するには OUTISO アイソレータを使用してください。

CBL206

4本の 1.5mm 雄型タッチプルーフを 1.5mm 雌型タッチプルーフに集合します。4つの電極を1つの入力へ集合します。MEC110Cを介して NICO100C 心拍出量アンプモジュールおよび EBI100C に接続します。



CBL207

2本の 1.5mm 雄型タッチプルーフと接続する 1m の雄型 BNC です。以下のものと一緒に使用します：

- ・ 1.5mm 雌型タッチプルーフ電極
- ・ STM200 単極パルス刺激モジュール
- ・ STM200 を MRI で使用するために MECMRI-STIMISO ケーブル/フィルタシステムと接続する場合



CBL229

CBL229 は、1.5mm 雌型タッチプルーフソケットと RJ11 ジャックの線長 3cm のケーブルです。

CBL229 は、TSD150 アクティブ電極を使用する場合に、電極リード線 (LEAD110 や LEAD110A) をグラウンドと接続するために使用します。

安全上の注意—このアダプタは TSD150 アクティブ電極以外の生体電位 (ECG, EMG, EEG など) を同時に記録しない場合に、グラウンドを確保するために必要となります。その為、すでにグラウンドが確保されている場合には必要ありません。